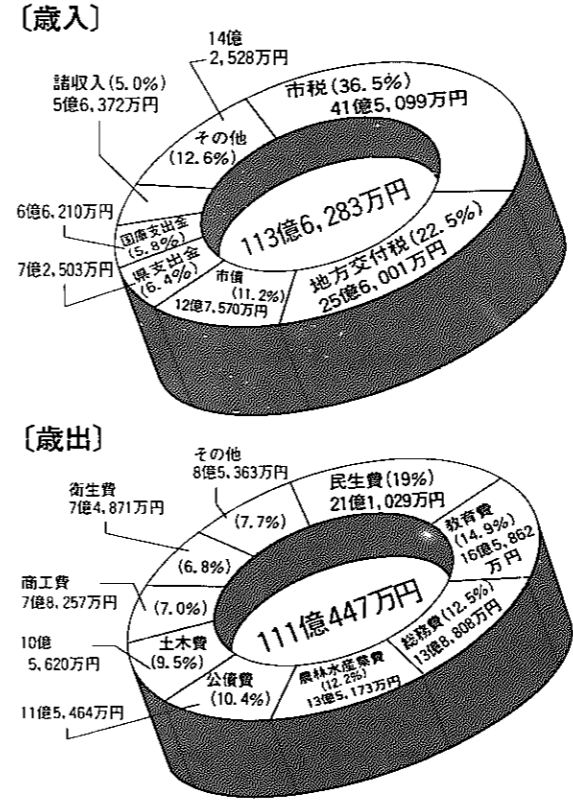


平成7年度一般会計決算見込み 2億5,836万円を 8年度へ繰り越し

平成7年度一般会計の決算状況(見込み)をお知らせします。決算額は、歳入が百十三億六千二百八十三万円、歳出が百十一億四千四百四十七万円、差し引き二億五千八百三十六万円を繰り越すこととなります。この決算は、今後市議会承認された後に確定します。

平成7年度の決算見込み額は、前年度に比べて一億九千二百五十五万円(一・七%)減少しており、歳入歳出



平成7年度の主な建設事業

- 農村モデル整備事業 3億4,200万円
- 市単独道路整備事業 2億1,521万円
- 庄瀬小学校用地取得造成事業 1億8,862万円
- 白井小学校屋内体育館建設事業 1億7,850万円
- 白井小学校食堂棟建設事業 1億2,557万円
- 白井小学校プール建設事業 9,141万円
- 広域農道整備事業負担金 1億6,362万円
- 県営地盤沈下対策事業負担金 1億6,159万円
- 農村基盤総合整備事業 8,429万円
- 農林水産業総合振興事業 6,942万円
- 桜遊歩道整備事業 6,215万円



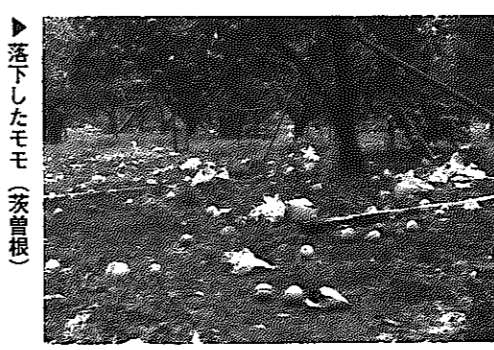
▲白井小学校 ▲桜遊歩道

増収となりました。これは、個人市民税の減税分が前年度に比べて七千万円ほど減少したことや法人市民税・固定資産税が増収したことなどが主な要因です。しかし、大規模建設事業の完了で国庫支出金や市債が大幅に減少し、歳入全体では前年度を下回る見込み額となっています。

歳出では、経常的経費が前年度に比べて五億四千二百六十七万円(七・九%)増加しました。これは、消防事務組合や衛生センター組合などの一部事務組合への負担金の増加、北中学校・しろね大風と歴史の館など各種施設建設のために発行した市債の元金償還が始まったことなどによるものです。一方で、白井小学校校舎棟、しろね大風と歴史の館建設事業が完了したこと

台風12号被害状況 モモ、ナシなど 果物に被害

八月十五日の午前、新潟県を通過した台風十二号。この台風による強風で、大通黄金地内の建築中住宅一棟が倒壊したほか、農作物に大きな被害が出ました。最も被害が大きかったのは果樹で、収穫目前のモモをはじめ、ナシやブドウ、リンゴなどが強風のために落下。被害総額は約三億三千九百万円に上りました。このほかにも食用菊や葉ねぎなどの野菜も被害を受け、農業関係の被害総額は約三億六千二百万円となりました。この総額は県内の農業関係の被害額の三分の一近くとなっています。



▼落下したモモ(茨曾根)



身近な情報をお寄せください
白根市役所 企画財政課 広報広聴係
☎373・2111



秋の完成に向け 御簾垣作りにも挑戦 庄瀬アメニティー公園内竹垣作り

庄瀬地区生涯学習連絡協議会が主体となって、昨年から取り組んでいる庄瀬アメニティー公園内の竹垣作り。地域の人の協力を得ながら、月に二回ずつ作業を進めています。

真夏の日差しが照りつける八月十一日には、地区の人たち三十人余りが参加して作業が行われました。この日は、初めて御簾垣にも挑戦。「辛苦な仕事だが、出来上がれば立派なものになるはず」と、地区の人たち。竹割りなどの作業をこなし、この日までに全体の半分近くが出来上がりました。

公園は庄瀬地区の真ん中に位置し、小学校や特別養護老人ホームなどに近い所。市が川又邸(庄瀬七)の土地を借りて、平成六年度にはベンチを設置したりあずまやを建てたりなど整備を進めてきました。土地を提供してくれた川又さんは「庭を自然のままにしておいたのが役立ってうれしい」と話していました。竹垣は今年秋に完成する予定です。



完成する予定です。

伝統芸能を お祭りで披露 臼井棒踊り



八月二十五日、臼井神明宮の秋祭り、同地区に百年余り前から伝わる伝統芸能の棒踊りを地区の小学生たちが披露しました。

臼井地区では臼井棒踊り振興会が「伝統芸能の棒踊りを保存し、後継者を育てよう」と平成五年度から公民館事業で子供たちに踊りを教えています。同会では、今年度自治総合センターの助成を受けて宮太鼓や横笛、棒半てんなど棒踊りの道具を購入。練習に励んできました。新しい半てんに身を包んだ子供たちは、掛け声を掛けながら、やぐらの回りで元気良く踊りを披露。集まった大勢の人たちから大きな拍手が送られていました。

研修を通じて 異文化理解を インドネシア公使、市長を表敬訪問



在日インドネシア大使館のイ・グステイ・スグラー・スエッチャ公使が八月五日に市役所を訪れ、竹内市長を表敬訪問しました。

今回の訪問は、アセアン農業研修生の受け入れ事業を実施している社団法人新潟県国際農業交流協会の招きによるもの。同協会では、今年もアセアンからの農業研修生を受け入れており、研修生五人が白根市を含む県内各地でホームステイしながら農業技術を学んでいます。

公使は「新潟県は農業県として知られており、学ぶ所として最適だと思っている。これからも引き続き、研修生の受け入れを支援したい」とし、ホームステイ受け入れに対しても感謝の気持ちを述べました。これに対して竹内市長は「異文化を知り、アジアを知る良い機会だと思ふ。研修を通じて両国の相互理解が深まっていくことでしょ」と話していました。